

令和4年度 再配達削減実証実験 実施結果

令和5年3月

大分県生活環境部
脱炭素社会推進室



概 要

【再配達削減実証実験について】

- ◆目 的 : 宅配の再配達削減によるCO₂削減を図るため。
- ◆対 象 : 大分県内在住で、置き配バッグ「OKIPPA」を設置し、宅配便受取記録及びアンケート調査にモニターとしてご協力いただける方。
- ◆応募期間 : 令和4年10月18日～11月13日
- ◆定 員 : 500名
- ◆応募数 : 1,134名
- ◆実施期間 : 令和4年11月25日～12月25日

【アンケート調査について】

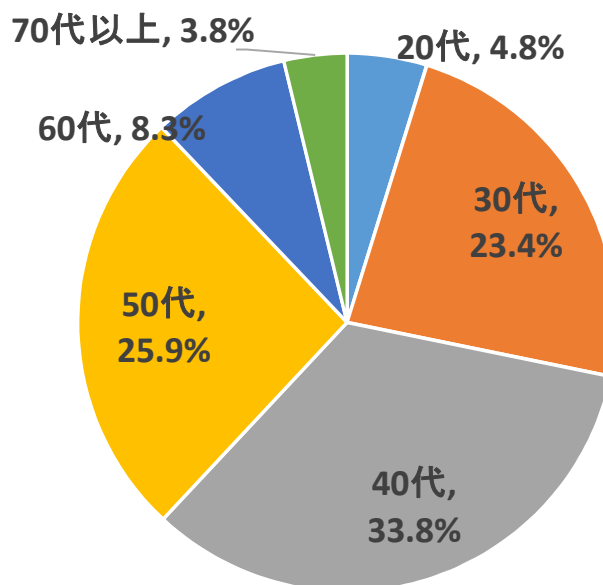
- ◆モニター参加者に、宅配便受取記録及び宅配便の利用状況等に関するアンケートを依頼し、回答いただいた。
- ◆回答方法 : WEBフォーム
- ◆回答数 : 397名

モニター参加者の属性について

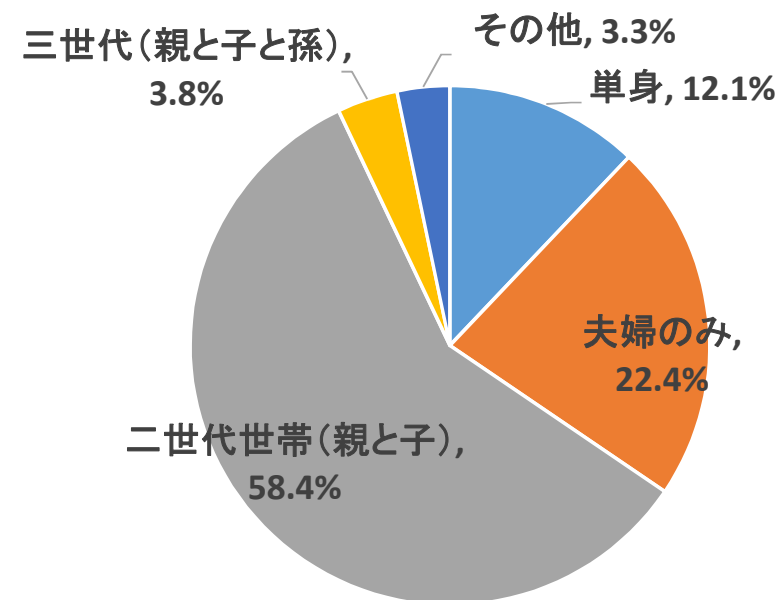
お住まいの市町村

大分市	231世帯
別府市	33世帯
中津市	34世帯
日田市	9世帯
佐伯市	12世帯
臼杵市	10世帯
津久見市	2世帯
竹田市	2世帯
豊後高田市	13世帯
杵築市	11世帯
宇佐市	12世帯
豊後大野市	5世帯
由布市	10世帯
国東市	1世帯
日出町	10世帯
九重町	1世帯
玖珠町	1世帯
計	397世帯

年代



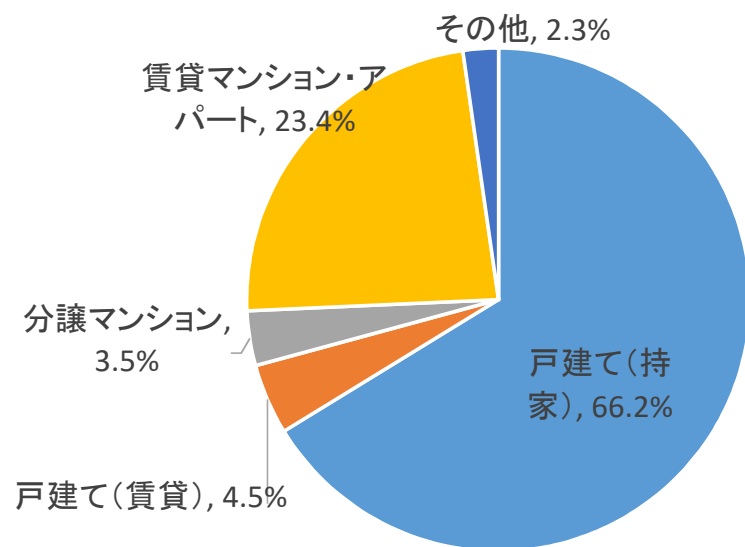
家族構成



モニター参加者の家族構成は、二世世代世帯(親と子)でお住まいの方が多く、半数以上を占めた。

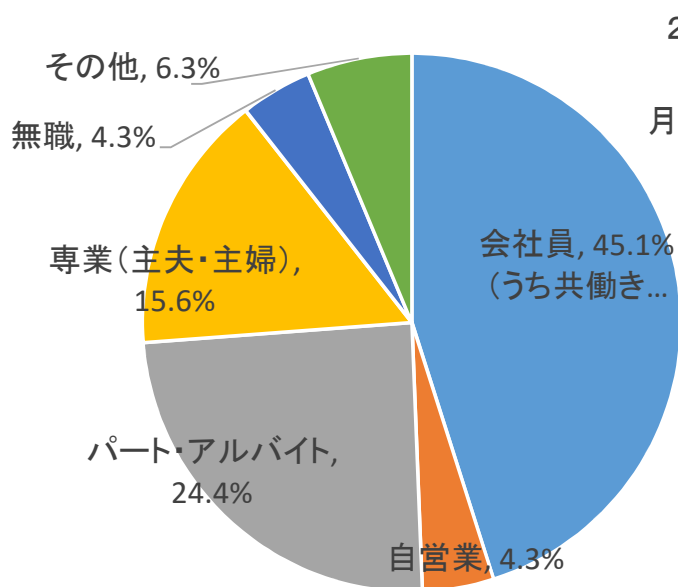
モニター参加者の属性について

住居形態



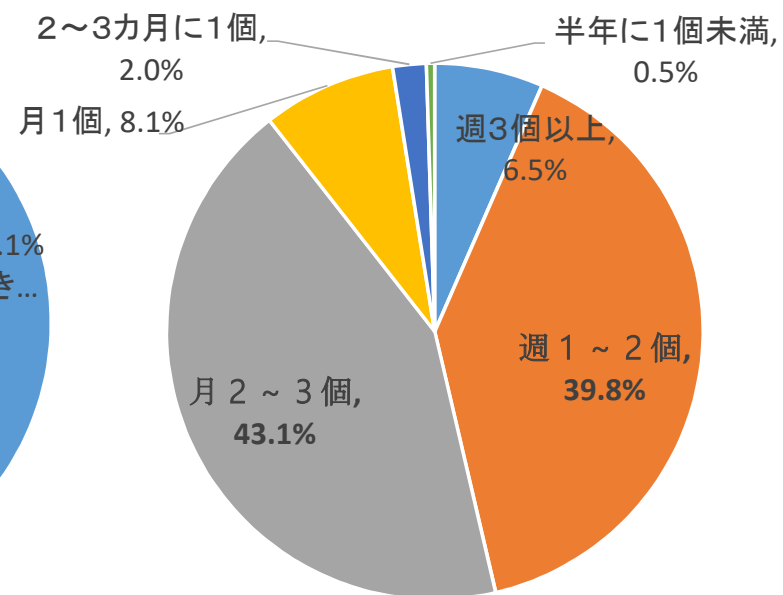
モニター参加者の約7割が戸建て(持家)にお住まいの方であった。

職業



モニター参加者の職業は、会社員、続いて、パート・アルバイトの方が多く、全体の約7割を占めた。

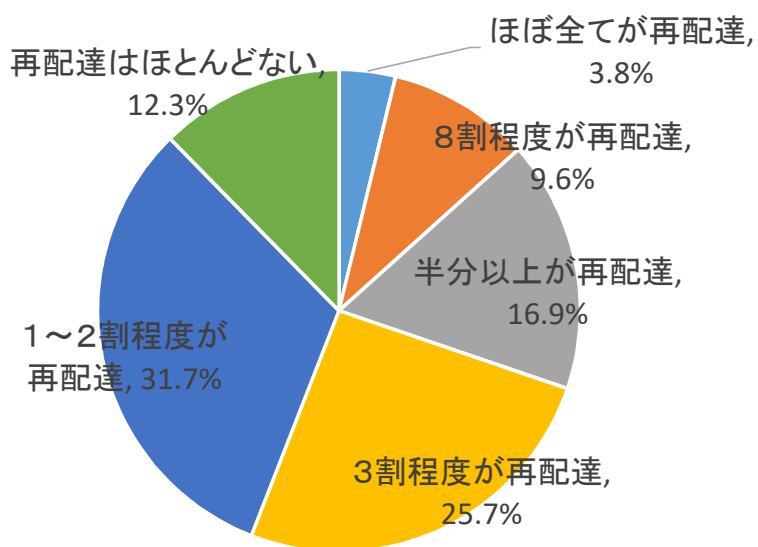
宅配頻度



宅配される荷物の頻度は、月2~8個程の方が全体の約8割を占めた。

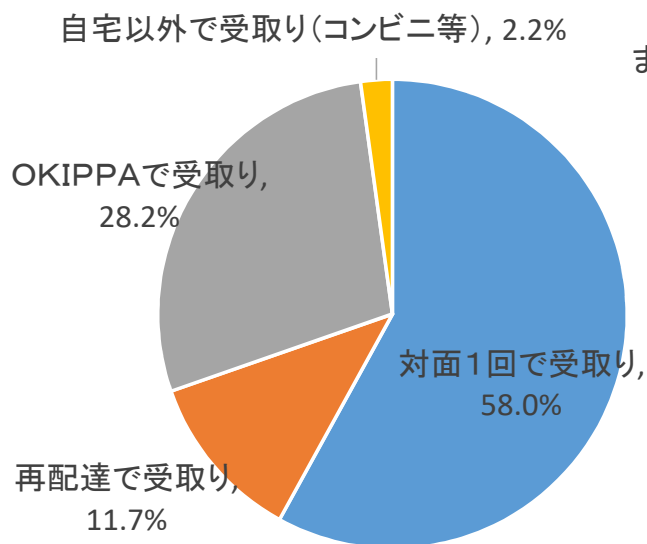
再配達削減実証実験の結果について

最近1年間の再配達状況



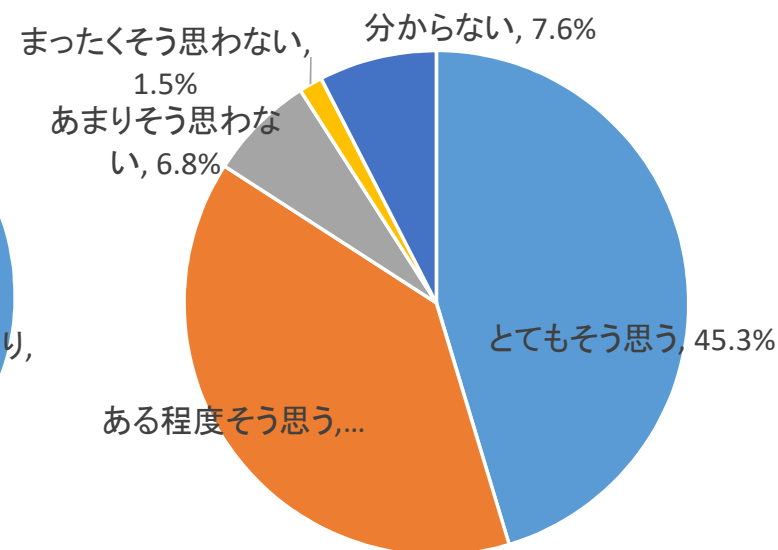
最近1年間の再配達状況について、「再配達ほとんどない」と回答したのはわずか約1割であり、ほとんどの家庭で再配達が発生していることが分かる。

実証実験期間中の受取状況



実証実験期間中(11/25~12/25)の受取状況について、宅配バッグの利用による受取が3割程度あった。一方で、再配達での受取は約1割であった。

「OKIPPA」を利用することにより、再配達の削減につながったと思いますか



回答者中約8割の方が、『「OKIPPA」を利用することにより再配達の削減につながったと思う』との回答があった。

再配達削減実証実験の結果について

二酸化炭素排出抑制量の算出

再配達削減実証実験期間中（11/25～12/25）、
約535.7kgの二酸化炭素排出量を抑制したと算出できる。
（※回答のあった397世帯の配達個数をもとに算出）（※1世帯あたり平均1.3kgの二酸化炭素排出量を抑制）



①杉の木に換算すると、
杉の木約61本が1年間に吸収する二酸化炭素量に相当する。
※林野庁HPを参考に1本あたり約8.8kgとして計算

②大分県内の家庭から1日に排出される二酸化炭素排出量に換算すると、
約21世帯が1日に排出する二酸化炭素量に相当する。
※令和3年度家庭からの二酸化炭素排出量（温室効果ガスインベントリオフィス）や令和3年版大分県統計年鑑を参考に世帯が1日に排出する二酸化炭素量を約25kgとして計算

【算出式】 二酸化炭素排出抑制量[t-CO₂]
$$=N[\text{個}] \times 0.58[\text{km}/\text{個}] \times 1[t] \times 808/1000000[t - \text{CO}_2/t \cdot \text{km}]$$

N[個]: OKIPPAにて受け取った個数
0.58[km/個]: 宅配便1個に対する配達者の走行距離
※宅配事業者から提供の配送車の走行距離を取扱個数で除して算出。
走行距離には幹線輸送の数値を含まない。
1[t]: 積載量の平均を1tと想定。
808/1000000[t - CO₂/t · km]: 営業用小型車の二酸化炭素排出原単位

※国土交通省「宅配の再配達の削減に向けた受取方法の多様化の促進等に関する検討会報告書」を参考に算出

ご協力いただいた皆様、
ありがとうございました。

